

高麗郡建郡1300年記念事業

第3回
1300年歴史シンポジウム
高麗郡建郡



武蔵国における高麗人と新羅人
〜 渡来人の動向から高麗郡建郡の謎に迫る！

2015年

12月5日 土

13:00～17:00 開場/受付 | 12:00より
会場 | 日高市文化体育館 ひだかアリーナ

入場無料
定員 800名
申込み不要 直接、会場へお越しください。

当日参加者に

限定

高麗郡歴史ミニガイド

プレゼント

第1部 講演発表 (講師 4名 × 30分)

- ◆ 考古資料からみた下毛野国の新羅人
講師 眞保 昌弘 (栃木県那珂川町 なす風土記の丘資料館)
- ◆ 高麗福信と武蔵国
講師 中村 順昭 (日本大学文理学部教授)
- ◆ 武蔵国の鉄生産技術と渡来人
講師 赤熊 浩一 (公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 調査監兼調査第一課長)
- ◆ 高麗郡建郡と大神朝臣狛麻呂
講師 鈴木 正信 (文部科学省初等中等教育局 教科書調査官)

第2部 パネルディスカッション

司会 荒井 秀規 (元明治大学講師)
パネリスト 眞保 昌弘 / 中村 順昭 / 赤熊 浩一 / 鈴木 正信

参加者限定

12月5日 歴史シンポジウム当日!!

『高麗郡歴史ミニガイド』をプレゼント!

高麗郡の歴史を大変分かり易く解説し、且つより範囲を広げた事項を盛り込んだ内容となっています。高麗郡について、さらに理解を深めるのにとても役立つ小冊子です。ぜひ、高麗郡の歴史学習にご活用ください。

講師からのコメント



栃木県那珂川町
なす風土記の丘資料館

眞保 昌弘
(しんぼ まさひろ)

持統天皇元年(687年)・3年(689年)・4年(690年)、帰化新羅人を下毛野国に移住させる記事が『日本書紀』にみえます。記事とのかかわりがうかがえる考古学的な資料に国宝「那須国造碑」があります。帰化人の東国配置が多数みられるなか、時期的、地域的な集中には、中央集権化を推し進める国家と在地勢力の深い結びつきを読み取ることができます。



日本大学文理学部教授

中村 順昭
(なかむら よりあき)

高麗福信(もと肖奈氏、のち高倉氏)は、高麗郡に本拠を持ちながら中央官人として活躍し、従三位まで昇りました。その間に武蔵守を3回も歴任し、新羅郡が置かれたのも福信が武蔵守の時でした。武蔵守高麗福信の動向を中心に、古代武蔵国のさまざまな変化について考えたいと思います。



公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査監業調査第一課長

赤熊 浩一
(あかぐま こういち)

奈良時代、武蔵国では足立郡(伊奈町大山遺跡)や入間郡(ふじみ野市東台遺跡)で大規模な鉄生産が行われていました。鉄生産は、豎形炉と呼ばれる円筒形の炉を使って行われ、関東地方特有の製鉄技術でした。そこで、この技術が導入された背景や生産システムを検討し、渡来人との係わりについて探ってみたいと思います。



文部科学省
初等中等教育局教科書調査官

鈴木 正信
(すずき まさのぶ)

高麗郡が建郡された歴史的背景を解明する足がかりとして、靈龜2年(687年)に武蔵守の職にあった大神朝臣(おほみけのあそみまろ)に注目しました。大神氏が7世紀中葉から対朝鮮半島外交に従事していたことや、高句麗遺民の列島への移住に關与したことなどから、狛麻呂が建郡に一定の役割を果たした可能性を考えたいと思います。

会場までの交通案内



日高市文化体育館 ひだかアリーナ

〒350-1206 埼玉県日高市大字南平沢1010 電話 042-985-2090

- 徒歩** JR 高麗川駅より約 20 分 (タクシーで約 5 分)
- 車** 県道川越日高線の日高郵便局の交差点より約 3 分
- 駐車場** 日高市文化体育館または日高市役所の P へ
(注) 駐車場は限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

会場への送迎シャトルバス
(注) 12月5日 歴史シンポジウム当日のみ

無料

(注) 時刻については若干の変更がある場合もございます。

JR 高麗川駅	約10分	→	ひだかアリーナ会場へ	ひだかアリーナ会場	約10分	→	JR 高麗川駅へ
時刻	12:00 発	12:30 発	13:00 発	時刻	16:00 発	17:00 発	17:30 発

問合せ先 日高市市民生活部・産業振興課「高麗郡建郡1300年事業担当」 電話 042-989-2111(代)
一般社団法人高麗1300(高麗郡建郡1300年記念事業委員会) 電話 042-978-7432

高麗郡建郡1300年記念

古代高麗郡展

主催:日高市教育委員会

12月2日(水)~12月13日(日)

日高市文化体育館ひだかアリーナ 1階ギャラリー